



青い目の人形

左 メリーちゃん
右 レアーちゃん



グーリック3世さんを迎えるの
児童歓迎会

「青い目の人形」発見

新校舎建築のために、大正時代に作られた校舎の取り壊し作業が進んでいた一九七三（昭和四八）年のことでした。

人形の発見者齊藤周先生（昭和四一年〜五〇年）は思い出をつぎのように語ってくれました。

「古い木造校舎が壊される昭和四十八年頃でした。もとの保健室が先生方の更衣室になっていて、その奥に物置がありました。そこに日本人形と一緒にガラス箱に入った青い目の人形を発見したのです。ポロポロになっていましたが、服も靴下も身につけていました。」ということ。 「こんな可愛い人形さんを捨てるのはかわいそう」と思って自宅に持ち帰り保管していました。

ところがしばらくして「青い目の人形」の事が職員の間で話題となりました。「もしかして？」と思った齊藤先生は、自宅に置いておくような物ではなく、学校に返して大事に

西江優二八

田中ころ

詠

27号

H. 3. 12. 6

田中さんは昭和三年に金井小に入学され
ました。その年の四月に青い目の人形メ
リちゃんがおきました。祖父が取るに
五丁取り
がうけつた。

学舎に親善人形メリーちゃん

戦時の歴史も越えてなう起し

敵の日敵国者と誇られて

ママと泣きしい人形メリーちゃん

年と経て逢ひし妹シアおん

故國のこゝとと語りぬらべし

保管する値打ちのあるものだと考え、伊藤校長のもとに届けました。

「青い目の人形」は、一九二七（昭和二）年二月、アメリカ各地の子ども達から集められた人形一万二、〇〇〇体余りが横浜に到着し、日本各地の小学校に届けられた物です。

これは日本とアメリカがもつと仲良くなるためにという願いを込めて、アメリカの親日家シドニーギューリック博士と日本の渋沢栄一という人が中心になって進めたのでした。

山形県には一六〇体が四月二日に配布されたということです。学校では歓迎会を開いて礼法室に飾り、毎年の雛祭りには一緒に講堂に飾られました。

ところが第二次世界大戦が始まると、アメリカは敵になり、「青い目の人形は敵の回し者だ!」ということになって多くの小学校では火をつけて焼いたり、児童の前で竹やりで突いたりして姿を消してしまつたのです。

金井小学校の先生方は、人形を人目につかないところに隠して守りました。当時の先生や伝えられた話の断片を紹介しますと、礼法室の間の上の戸棚にしまわれたり、階段の物置の奥の方にあつたこともあるそうです。その時、「学校には暗い所に人形があつて、見る度に髪の毛が伸びているようだ」等と怪談めいた噂もあつたということです。

現在残っている「青い目の人形」は山形市で三体だけということです。

「青い目の人形」 志戸田 鈴 不 マサノ (1933. 秋)

尋常小学校三年生の時です

体育館に金沢児童が集つた夜校長先生の話しがありました。

「青い目の人形」の話を聞かされた人形の紹介をいた。種はさまざまと目をつぶる

のめをうけてみたうと思ひ出します。みんなモンペ姿だ。たりて人形

の洋服も初めてみたうに思ひます。目をつぶると「マンマ」といふ声も

おぼえしに日本人形を送つたそうを、これと同日人形はよしとて

日本人形とエフなうへてかえつてありました。

(この思い出の記は平成三年に書かれたものです)